

「江別市立病院経営再建計画(案)」に対する市民意見募集の結果と市の考え方について

令和3年2月
江別市立病院

■意見の募集結果

募集期間	令和2年12月15日～令和3年1月14日
提出者数	8人
提出件数	41件

■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見を受けて案に反映するもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案に反映していないが、今後の参考等とするもの
D	案に反映しないもの
E	その他の意見

※特記事項

パブリックコメントの内容については、提出者の意見をできるだけ正確に表すため、人物を特定できるような固有名詞やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

パブコメ意見一覧

提出者数：8人（個人6人、団体2件）

件数：41件

■意見に対する考え方の区分

区分意見の反映状況

- A 意見を受けて案に反映するもの
- B 案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
- C 案に反映していないが、今後の参考等とするもの
- D 案に反映しないもの
- E その他の意見

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
1 - 1	<p>大学が派遣する各病院の医師の人事はいうまでもなく、医学部の附属病院での診療科ごとの医局という組織がおこないます。必要とされる医療を持続的に供給できる体制の確保にあたっては、そうした組織とのつながりが欠かせません。江別市は札幌のベッドダウンとして人口も多く、医療の需要が多い自治体です。江別市としても、各大学の医局とのつながりを途絶えさせることなく、持続することが重要です。また、経営再建にあたっては、コロナ禍の現状において、医療収入確保のため、患者さんの受診控えを防ぎたいところです。江別市立病院の衛生面における安全性のPR・広報活動を積極的におこなっていくべきだと思います。</p>	<p>医師確保に当たりましては、医育大学とのつながりが重要であると考えておりますことから、寄附講座の設置などにより大学医局との関係性の強化を図る旨を明確化します。また、経営再建を着実に進めるためには、広報活動を積極的に行うことが重要であると考えられますので、広報活動を充実することを明記します。</p>	A
2 - 1	<p>私が、一市民として地元で望む医療は、受診での移動と時間負担が大きく具合の悪い状態での札幌頼りの現行体制を何とかして欲しい事です。全ての病気に対応して欲しいなどと言うことは、勿論ありませんが、日常起こり得る普通の病気は、特に入院では、やはり近くにある医療機関を一番頼りにしたいと思っています。</p>	<p>経営再建計画（案）では、「地域の医療をつなぎ、地域に密着し医療を提供し、地域の発展に貢献する病院」として、地域密着型の医療の実現を目指し、公立病院として担うべき医療の重点化を図ることとしています。日常起こり得る普通の病気については、地域の医療機関と連携しつつ、市民にとって必要な医療を提供できる体制を確保していきたいと考えております。</p>	B
2 - 2	<p>さて、経営再建計画を読ませていただきましたが、「新公立病院改革プラン」に比べ、現状・将来の医療需要分析が行われており、ずいぶん進化したのですが、少し物足りなさが見て取れます。率直に言って、3年後に外来、入院数、単価が目標達成出来るのかと言うことです。特にR2、R5の比較で入院・外来とも収益増加の70～80%を利用患者数の増加によって賄おうとする計画で、患者確保がキーポイントとしていますが、業績悪化は、利用者のニーズと支持を得ていないことに尽きますので、単に総合医の退職は原因の一部でしかないと思います。そして、現状からの診療体制を若干パワーアップするだけでの再建計画において患者数確保の根拠に乏しいと思われる。</p>	<p>経営再建計画（案）の策定にあたりましては、江別市国民健康保険被保険者及び後期高齢者（江別市内居住者に係る平成29年度及び平成30年度の医療費データの分析結果に基づく入院・外来別の流出率、また、2040年に向けての入院、外来別の疾患別の患者数の推計をクロス分析し、当院が目指すべき診療体制について検討をしたところであります。今後も、地域医療の需給動向を継続的に分析し、診療体制の構築を進めたいと考えております。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
2 - 3	<p>分析の物足りなさについて</p> <p>①市民の直の声を聞いていないのではないかと。検討委員会メンバーに2人程市民代表が加わっていましたが、100人単位での意見徴集が実施されたのでしょうか、単に形式的に委嘱しただけで、市民2人の意見だったのではありませんか。専門家も、市民の意見は良く分かっていると考えがちですが、意外とズレがあるもので、私自身の経験から申し上げます。</p> <p>②2040年までの分析が行われていますが、20年先では、団塊の世代の退場、画期的な医療診断と技術で非常に不確かなものでないでしょうか。それより5～10年程度の将来予想で、もっと具体的な疾患名の動向を示すことが出来るので有意義な分析が行えます。又、地域の他医療機関との競合関係の分析がなされてなく、例えば、大麻地区の受診数が低いのは、新札幌までの距離と市立病院までの距離が同じ程度であることが主因であると思います。競合分析は、利用者確保からも必要で、且つ比較優位な分野も知るためにも不可欠と考えます。</p> <p>③開業医から市外への紹介での具体的な疾患名と病態まで踏み込んだ分析が示されていません。この点が判ると整備の具体的な分野が見えてくると思います。</p> <p>④救急搬送についても、③同様市外への具体的な疾患と病態の分析がなく判らなし整備の参考とすることが出来ません。</p> <p>もし、詳細な分析により、比較優位な分野が確立出来ないなら、札幌の特定の推奨施設を提示し、受診負担軽減策を取りながら、極めて残念であるも政策的な小児科・産婦人科を中心とした大幅な再編しかないのかもしれない。</p>	<p>市立病院では、平成31年1月に「江別市立病院シンポジウム」を開催し、129名の方の参加をいただき、市民の皆様から、様々なご意見をいただいたとおろであります。</p> <p>また、令和元年8月に設置した、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」の市民委員公募については、30名の応募をいただき、その中から2名の市民委員を委嘱させていただきました。</p> <p>「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」では、「江別市立病院シンポジウム」での市民からのご意見や市民公募委員の意見を踏まえ、審議いただいたところであります。</p> <p>経営再建の実現するためには、市民の理解と協力が不可欠であり、市民の声を直接お聞きすることが非常に重要であると考えておりますことから、コロナ禍の状況の推移を見極めつつ、市民のご意見を直接お聞きする機会を設けたいと考えております。</p> <p>また、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」におきましては、札幌圏地区別の主要診断群患者数割合や疾患分野別の地区別流出率などの分析資料等を提示しながらご検討いただいたものですが、競合分析など比較優位な分野を確立するための分析は、経営再建に向けて有効であると考えられることから、今後の参考とさせていただきます。</p>	C
2 - 4	<p>さて、市立病院は、病床を持つ病院ですので、再建のためには、入院患者の確保（空きベッドをなくす）が第一であります。入院患者の発生は、次の3点となります。</p> <p>①自院の外来患者となるも、総合診療を中心にきたことより、対象が一次医療となり、又診療圏も狭く入院までに繋がりにくい可能性が高いと思われま。地方の他に医療機関がないところでなら極めて有効となるも、札幌に近く、市内の開業医もそれなりに多いこの地では入院患者のルートとしては難しいだろうと思います。</p> <p>②開業医からの紹介、救急受け入れが一番の有効ルートであろうと考えます。しかし、内科医師の体制が示されている通り、専門医は消化器科+1、循環器科+2名であり、強化すると言っている癌疾患や心疾患についても「他医療機関と連携」となっており、直接での治療目的での入院患者確保には、弱いと思います。急性期後の受け入れに特化するのが良いのかもしれませんが、市民の一人としては、最初に述べた希望からほど遠く、限りある医療資源制約からと言われても、近くで良質な医療を断念することを求められるのは納得し難いと感じてしまいます。総合医+3名と、いまだに総合医に拘る理由が分かりません。感染症対応とされているとしますが、今、コレラ・ペストに対応する必要性が全く不明であります。</p> <p>③DPCでの、姑息な方法として、上限ギリギリまでの入院日数を患者にお願いすること。たとえ、寝ているだけ、薬だけでもベッド空けるより良いと割り切ること。説得と納得への働きかけと努力なのですが国保への影響も考えなければなりません。</p> <p>これらより、利用者確保は期待しにくいと思います。</p>	<p>経営再建計画（案）では、地域医療の需給動向を分析し、特に、5疾病のうち「がん」の対応を強化し、入院患者の確保を目指すこととしています。また、総合医と専門医が連携して高齢者医療に対応する診療体制を構築し、開業医からの紹介患者、救急患者の確保に努めるほか、DPC運用の最適化を図ることとしております。</p> <p>さらに、現状における入院患者確保に向けた取り組みとして、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」の答申を踏まえたロードマップに基づき、札幌市内の医療機関と連携して、回復期の入院患者の受入れも進めております。</p> <p>なお、高齢者医療の複合疾患に対応するための内科診療体制の構築に向けては、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた新興・再興感染症への対応など、感染症対策の強化が重要と考えております。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
2 - 5	<p>その他として若干の提言</p> <p>①増員の医師に、一騎当千の働きを求めることが出来るのなら、もしかして利用者増加も夢ではないと思います、そこで質的に高い評判の良い医師の確保のために、近隣の大手病院を定年退職予定者への積極的なリクルート活動を検討したい。</p> <p>医師も単に数だけ、免許持つだけではなく、65歳が定年でもあれば、その後数年間手助けいただけるように三顧の礼を尽くしてみたいかがでしょうか。</p> <p>②給与体系であります、いまだ年功給与制などであれば、経営体系の変更を速やかに行うべきだろうと思います。但し大量退職防止への配慮は、十分でなければ危険でもあります。</p> <p>③短期的に実績を確保する方法として、「長所伸展法」を考えてみるのも良いかもしれません。院内で業績が比較的良好な診療科、分野について集中的に予算配分し改革の牽引役となってもらいます。内科など基本的に整備が必要だとしてもなかなか道が険しいなら効果が実感出来ないまま過ぎてしまいそうだからです。内情がわからないのですが、例えば整形外科で上肢・下肢・脊椎の分野の専門医と先端手術への投資です。</p>	<p>医師確保にあたっては、多様な人材の確保が重要でありますことから、定年退職後の医師の採用についても、積極的に取り組んでいく旨、計画に明記します。給与体系につきましては、人事院勧告に基づき、国家公務員に準拠することとしております。</p> <p>また、高齢化が進む江別市におきまして、整形外科分野を含む高齢者の複合疾患に対応できるという当院の強みを伸ばすべく、大学との連携による「寄附講座」の設置にあたり、高齢者医療の充実など、市民の健康寿命延伸に向けた先進的な研究の実現に取り組む旨、計画に明記します。</p>	A
2 - 6	<p>まとめにかえて</p> <p>市民の全ての医療ニーズに応えることは、そもそも出来ないことでありますが、出来るだけ、収支のバランスを見ながら対応して欲しいと思います。そして本計画に於いても市民が誰でも将来の病院の姿がイメージ出来るようにして欲しいものです。</p> <p>医療機関として成り立つためには、診療圏の確定と、その地域の中で比較優位な診療分野を少なくとも1~2を持ち明確な差別化を行うことです。当然の事として、利用者の圧倒的な支持を前提とします。</p> <p>数名の医師の増員と現行体制では、他に医療機関がなく、開業医も少ないなど、ある意味、過疎地帯の地方都市では、有効な内容と見なせますが、当地域の環境下では、相当難しいと思います。「改革プラン」でも提言しましたが、その反応は的外れのもので提示した計画は、一切変更しない意思を感じました。今回も同様かと思いますが、何とか再建に頑張ってもらいたく申し上げました。</p>	<p>地域医療の需給動向や市民の皆様からのご意見を踏まえつつ、「がん」への取り組みなど、担うべき医療の重点化を図り、収支均衡の実現に向けて、着実に経営再建を進めてまいりたいと考えております。</p>	B

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
3 - 1	<p>パブリックコメントについて 江別市立病院再建計画は「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」の答申を踏まえ、経営再建に向けたロードマップを策定し、令和5年度までに経営再建に取り組むとしています。</p> <p>収支改善に係る指標 経常収支比率 101.7% (令和元年83.5%) 医業収支比率 96.3% (令和元年77.6%)</p> <p>経費削減に係る指標 職員給与費対医業収益比率 53.51% (令和元年 66.1%)</p> <p>収入確保に係る指標 1日当り入院患者数 200人 (令和元年 173人) 1日当り外来患者数 650人 (令和元年 560人)</p> <p>新規入院患者数 5,500人 (令和元年 4,258人) 経営の安定に係る指標 医師数 42人 (令和元年 34人) 大変立派な指標です。</p> <p>市立病院は平成18年度以降今日まで、5回に亘り計画を見直して経営健全化に努力してきましたが、経営再建どころか経営悪化をし続けています。計画と実績との乖離は、毎年度の予算・決算においても同様で、健全化評価委員会から、「予算案の数値が現時点で達成不可能な数値とならないよう、達成可能性の高い数値を設定し直す必要がある。」(平成28.2.29)と指摘しています。</p> <p>乖離の原因は、病院を存続させるための希望数値であるからです。</p> <p>この度の経営再建計画も病院存続を前提にしており、この15年間の実態と国の描いている地域医療の目指す姿等から考察すると、全く実現不可能な指標です。</p> <p>民間医療機関なら毎年倒産している病院経営を、公的病院の名の基に、いつまでも抜本改革を引き伸ばしすることは許されません。</p> <p>平成28年3月に策定された「江別市立病院新公立病院改革プラン」策定に関するパブリックコメントは、市民19人から111件の意見が寄せられました。</p> <p>しかし、計画に反映されたのは存続を前提にした意見11件、改革に向けた真摯な意見はことごとく反映されませんでした。</p> <p>市立病院の抜本的な改革の意思がなく、継続を前提にしておりパブリックコメントは、セレモニーで終わりました。</p> <p>この度は、提示された全ての意見を市議会と市立病院経営改革評価委員会に提示して意見を聴取し、再建計画に反映していただきたいと考えます。</p>	<p>経営再建計画(案)における数値目標については、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」からの答申を踏まえ、「江別市立病院経営評価委員会」のご意見を伺いつつ、設定したものであり、達成可能なものと考えております。</p> <p>なお、「外来患者数」及び「入院患者数」の目標値については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「外来」については、機能分化・連携強化を進め、「入院」をより重点化する方向で見直しを行います。</p> <p>また、パブリックコメントでいただいた市民意見につきましては、全ての意見につきまして、江別市立病院経営評価委員会のご意見も伺い、市の考え方をとりまとめ、議会に報告いたします。</p>	E
3 - 2	<p>II 市立病院経営改革に対する意見 市立病院の経営改革を検証する4視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域医療における自治体病院の使命 2. 医師の離職と患者の受療実態 3. 政府の指針～「公立病院改革の推進に関する調査研究会」と「地方分権制度改革」意見及び総務省が計画している江別市立病院の役割 4. 一般会計からの健全な財政支援 <p>検証内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. そもそも、市立病院は、是が非でも必要か 2. 必要であるならば、提供する医療は何か 3. 診療科の一部又は全部について民間委託等はできないのか 4. 民間医療機関への譲渡及び廃止はできないのか 5. 広域連合で担う部門はないのか 6. 政策医療をどう担っていくのか <p>結論 一般診療科は、譲渡又は廃止し、政策医療は委託、助成措置、広域連携を実行する。</p>	<p>経営再建計画(案)では、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」からの答申を踏まえ、市立病院が担うべき医療の重点化を図るとともに、診療体制の確立、経営体制の構築を進め、経営再建を実現することを目指しております。</p> <p>また、経営形態につきましても、地域医療の安定確保を図りつつ経営再建を着実に進める観点から、令和4年度までに地方公営企業法の全部適用へ移行することとしています。</p>	D

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
3 - 3	<p>検証意見</p> <p>1. 地域医療における自治体病院の使命～地域医療協議会の早期設立</p> <p>(1) 自治体病院には、担うべき3つの使命があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> イ ヘき地医療(当市は非該当) ロ 政策医療(救急・小児・精神・産婦人科等) ハ 高度医療(当市は非該当) <p>江別市立病院が担う基本的使命は、政策医療です。</p> <p>(2) 地域医療は、自治体病院と民間医療機関の連携により確保するのが基本です。</p> <p>江別市内には70有余の民間医療機関が開業していますが、官民連携は進んでいません。</p> <p>江別市立病院と民間医療機関の住み分け、即ち、市立病院の担うべき役割を明確にするために、江別市と江別市医師会との協議機関を早急に立ち上げるべきです。</p> <p>協議会メンバーは</p> <ul style="list-style-type: none"> イ 江別医師会 ロ 行政側からは、市政全般から見た政策形成のバランスに配慮できる政策マンを配置する必要から、企画制作部・保健福祉部・市立病院事務局 ハ 総務省が委嘱した公営企業経営アドバイザー 	<p>市では、令和元年8月に「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」を立ち上げ、市立病院が担うべき役割と診療体制、経営安定化、公的支援等の水準等について、審議いただき、経営形態の見直しを含む抜本的な経営再建に向けた提言をいただいたところです。</p> <p>同委員会は、医療関係者、江別医師会代表者、学識経験者、公認会計士、市民団体代表者、公募市民などにより組織されており、また、事務局につきましては、全市的な課題として取り組むべく、総務部、健康福祉部、市立病院事務局が担当したところでございます。</p>	D
3 - 4	<p>2. 医師の離職と患者の受療実態</p> <p>(1) 医師の離職実態</p> <p>市は、「市立病院の経営悪化は、医師派遣制度の変更と内科医師の大量退職にある。医師を確保すれば経営改善はできる」と発信し続けていますが、医療機能の充実した札幌市に近接、市内に70余の民間医療機関が立地、更に、医師の離職原因を見ると、江別市の医療環境は、多くの自治体と全く異なる恵まれた環境にあり、一度離反した患者を引き戻すことは極めて難しいと考えます。</p> <p>離職原因</p> <ul style="list-style-type: none"> イ 大学医局からの派遣は、若手医師が中心で、勤務2～3年で医局に戻る。 ロ 患者がどんどん離れていくことは、医師として耐えられない。 ハ 江別市立病院には、新しい医療知識や技術を取得する環境にない。 ニ 医師の給与条件や勤務体制は他の医療機関と大差がなく、目立った魅力がない。 ホ 居住環境は、札幌などの都市に比べると魅力がない。 	<p>当院における医師の離職実態としては、新専門医制度を契機とする指導医の転出といった要因が大きいと分析しておりますが、医育大学等との関係を強化しながら、医師招聘を進めるとともに、ご指摘の内容も参考とさせていただき、医師の定着に努めてまいります。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
3 - 5	<p>(2) 市民の受療実態</p> <p>イ 江別市は、高度医療を含め、医療環境が充実している札幌市に近接しています。 江別市と同じように札幌市に隣接している石狩市、恵庭市、北広島市の3市には、市立病院は開設されておらず、救急夜間医療に特化して医師会に業務委託、他の診療科は、民間医療機関に委ねています。</p> <p>ロ 江別市は、大麻地区、野幌地区、江別地区の3地区に分けられ、この3地区市民の市立病院の利用実態(平成17年度調査)を見ると、大麻地区14.3%、野幌地区29.8%、江別地区55.8%と大きなばらつきがみられます。</p> <p>ハ 北海道医療計画による札幌二次医療圏(札幌市、江別市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村)の患者受療状況を見ると、江別市民の入院は、札幌市内病院42.0%、江別市内病院52.7%、外来は、札幌市内病院18.3%、江別市内病院80.4%で、市民は疾病により病院を選択していることは明らかです。</p> <p>(3) 市立病院の利用実態調査のための国民健康保険レセプト分析 患者の受療実態をより明らかにするために、国民健康保険のレセプト(注1)を</p> <p>①医療機関 イ江別市立病院 ロ 江別市内の民間病院 ハ 札幌市など江別地区以外病院に3区分</p> <p>②市民 イ 大麻地区 ロ 野幌地区 ハ 江別地区に3区分</p> <p>③診療科別(市立病院の診療科別)区分</p> <p>④入院別に区分した分析開示を求めます。</p> <p>即ち、例えば、眼科の市民総患者(100%)が、市立病院で大麻地区市民、野幌地区市民、江別地区市民別に何%受療しているかを把握することが、極めて大事なことです。</p> <p>市立病院の幾つかの診療科の市民の総受療率は10%未満であること、特に、大麻地区、野幌地区市民の受療率は極めて低いことが明らかになり、そうした受療率の低い診療科を大幅な赤字経営をしてまで、市立病院が担う必要があるのか否かを容易に判断ができるようになります。</p> <p>(注1) 政府は、自治体が自ら保有するレセプト情報を医療の効率化・医療の質の向上・病院経営の効率化等を実現するため、積極的に活用することが重要であると推奨しています。</p> <p>また、自治医科大学も、レセプトの分析をすることで</p> <p>①適正な地域医療体制づくりの支援を行うことができる。</p> <p>②保健・医療・介護の連携作りの支援を行うことができる。</p> <p>③医療費の効率化施策の支援を行うことができる。と推奨しています。</p>	<p>「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」においては、江別市国民健康保険被保険者及び後期高齢者(江別市内居住者)に係る平成29年度及び平成30年度の医療費データの分析結果に基づく入院・外来別の流出率や、2040年に向けての入院、外来別の疾患別の患者数の推計をクロス分析し、当院が目指すべき診療体制について検討いただいたところであります。</p> <p>経営再建計画(案)では、こうした検討を踏まえ「がん」への対応など、担うべき医療の重点化を図ることとしています。</p> <p>ご指摘をいただいた市民の受療実態、市立病院の利用実態調査のための国民健康保険レセプト分析の視点につきましても、今後、経営再建を進めるにあたり、参考とさせていただきます。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
3 - 6	<p>3. 政府の指針～自治体病院改革・地方分権・江別市立病院の役割</p> <p>(1) 「公立病院改革の推進に関する調査研究会」意見</p> <p>イ 公立病院改革プランの策定に当たっての具体的な取り組みとして、民間的経営手法の導入、事業規模・事業形態の見直し、経費削減・抑制対策、収入増加・確保対策等について具体的にどのような取り組みをどの時期に行うこととするか明記することを求めています。即ち、廃止、譲渡、再編・ネットワーク化も排除すべきでないとしているのです。</p> <p>ロ 地域医療確保のための財政的支援はメリハリの効いた支援が必要であるとして、</p> <p>①へき地などの地域の生活を支える公立病院及び不採算地区病院（病床数が150床未満で、且つ、最寄り一般病院までの到着距離が15キロメートル以上であるもの）への支援を強化する。</p> <p>②へき地医療、救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療、精神科医療、高度医療など不採算部門に対する財政措置を拡充強化する。</p> <p>即ち、地方交付税は、辺地医療への90%を始め、政策医療へ特化、また、病床利用率も90%を確保を目指すとしています。</p> <p>江別市立病院の病床利用率は、平成30年度58.5%で、類似病院78.2%に比べても極めて低い実態にあり、実行されると地方交付税は確実に減額されます。</p> <p>(2) 「地方分権制度改革」意見</p> <p>国が最低限保障すべき行政サービスはどこまでなのかということを再検討して、地方行政に対する国の関与の縮減、国庫補助負担金制度の整理合理化、地方交付税のあり方を見直す。（地方分権改革委員会勧告）</p> <p>(3) 総務省の計画する江別市立病院の役割</p> <p>総務省は、2025年における江別市立病院の役割は、救急、精神疾患、周産期、小児医療、病床数は、急性期用（注2）278床と計画しており、他の診療科目は、除外されています。</p> <p>（総務省自治財政局公営企業室財政健全化専門官提供）</p> <p>（注2）「急性期入院医療とは、疾病や外傷など急性発症した疾患や慢性疾患の急性増悪の治療を目的とし、一定程度の改善まで、医師・看護師・リハビリテーション専門職員等が中心となって行う医療</p>	<p>市立病院の経営再建を進めるに当たっては、国の方針を踏まえることが重要であると考えております。</p> <p>経営再建計画（案）は、「北海道医療構想」との整合性を図り策定するものであり、総務省が示した「新公立病院改革ガイドライン」を踏まえ策定した「江別市立病院新公立病院改革プラン」の後継計画として位置付けられるものです。</p> <p>なお、「新公立病院改革ガイドライン」（対象期間：令和2年度末まで）の改定等を含む同ガイドラインの取扱いについては、その時期を含め、総務省から改めて示されることとなっているため、その動向を注視し、必要な対応を行うものとしています。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
3 - 7	<p>4. 一般会計からの健全な財政支援</p> <p>(1) 一般会計から市立病院への繰入金は、14億円強で推移しています。それにもかかわらず、累積欠損金は、平成30年度110億円に達し、16倍の人口を誇る札幌市の97億円と比べても異常な金額です。「繰入金は、明確な基準に基づき負担する」と言って、現行の繰入金14億円を上限にしているようですが、類似自治体に比べ極めて大きな額で妥当性に疑問があります。</p> <p>(2) 平成30年度の一般会計からの地域医療への投下額は、市立病院繰入金14億円の他に、夜間救急センターへ1億5000万円、これに貸付金13億円を加えると、総額28億5000万円にのぼり、市税収入124億8,400万円の22.8%に当たる巨額です。多額な一般会計の負担は、福祉や教育などの諸施策に影響が出ているのです。</p> <p>(3) 平成30年度末の不良債務額14億1,654万円の段階で、本来、国の管理下における「財政健全化団体」（注3）に指定されるのですが、一般会計から6億円、令和元年には、13億円貸し付けて指定を避けています。不良債務は、27億円に達し、しかも、この貸付金は8年間支払い猶予です。8年後、市立病院は、譲渡、または、廃止、政策医療に特化されて病院が縮小される可能性が非常に高いと考えると、多額の累積欠損金と不良債務の償還を病院会計で処理することは不可能です。</p> <p>(注3) 地方公共団体財政健全化判断比率</p> <p>実質赤字比率 赤字の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合</p> <p>連結実質赤字比率 地方公共団体の全会計に生じている赤字の大きさを、財政規模に対する割合</p> <p>実質交際化比率 地方公共団体の借入金の返済額の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合</p> <p>将来負担比率 地方公共団体の借入金（地方債）など現在抱えている負債の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合</p> <p>のいずれか一つでも一定の基準を超えると早期健全化団体に指定され、外部機関による監査実施、および財政健全化計画策定が義務付けられる。</p>	<p>経営再建計画（案）では、市立病院は自立的な経営と明確な基準に基づく一般会計からの公費負担によって収支の均衡を図り、持続可能な医療提供体制を確立することとしています。</p> <p>また、一般会計からの長期貸付金（令和元年度末残高：2,275,563千円）については、令和2年度から令和4年度までの間、返済猶予を受けていますが、着実に経営再建を進め、令和5年度以降、計画的に返済を行うこととしています。</p>	D
3 - 8	<p>5. 経営形態</p> <p>政府は、平成19年の「公立病院改革ガイドライン」で、人事・予算等に係る実質的権限、結果への評価責任者の一本化等、民間的経営手法の導入を推奨しました。</p> <p>この方針に沿って、先進的自治体は、地方公営企業法の一部適用から全部適用に改革し成果を上げておりますが、それらの自治体の中には、更に、改革が必要であると地方独立行政法人への転換を進めています。</p> <p>江別市立病院の経営を継続することになった場合は、独立行政法人化すべきです。</p>	<p>経営再建計画（案）では、令和4年度までに地方公営企業法の全部適用に移行することとしております。また、経営形態の方向性として、長期的に経営を安定させ、持続的に医療を提供するためには、他の医療機関との機能分化・連携を図りつつ、民間医療機関並みに病院運営を効率化する必要があり、地域医療を取り巻く環境の変化に柔軟かつ迅速に対応することができる経営形態である地方独立行政法人への移行を指向すべきものと考えています。</p>	B

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
3 - 9	<p>6. 政策医療 政策医療についても、直営にこだわらずに</p> <p>(1) 夜間・救急医療は、江別医師会に委託 (2) 周産期医療は、「産婦人科のベットを保有しているのは、市立病院のみのため存続する」といつ安易な結論を出さずに、民間病院への助成、又は、医療機関を自由に選択して安心安全に出産できるように、出産一時金を増額（現行42万円を例えば52万円） (3) 精神科、小児科等の患者数の少ない医療は、助成措置 又は、広域連携</p>	<p>経営再建計画（案）では、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」からの答申を踏まえ、いわゆる政策医療のうち、周産期医療、小児医療については機能を維持しつつ、救急医療、災害医療については、民間病院や他の医療機関と連携し、体制を構築することとしています。</p>	D
3 - 10	<p>7. 検証の結論 江別市立病院は、民間への譲渡、それが難しければ廃止する。 廃止より譲渡を優先する理由は、譲渡財源を借入金の返済などに充当できる。</p> <p>検証総括</p> <p>(1) 江別市を取り巻く医療環境は、多くの自治体と異なる恵まれた環境にある。 (2) 市民は疾病により病院を選択し、且つ、3地区（大麻・野幌・江別）市民の市立病院受療率は大きなばらつきがある。全市民の市立病院受療率は、決して高くない。 (3) 江別市と同じように医療機関の整備された札幌市に隣接する石狩市、恵庭市、北広島市3市は、市立病院が設置されていなくても市民の医療が確保されている。 (4) 総務省は、2025年における江別市立病院の役割は政策医療に特化し、他の診療科は除外している。 (5) 一般会計から病院会計へ毎年度14億円強繰入しているにも拘わらず、経営悪化を続け、平成30年度累積欠損金110億円に達している。 (6) 平成30年度に国の管理下における「財政健全化団体」の指定を受けなければならないにも拘わらず、これを避けるために一般会計から貸し付けを受けて指定を逃れている。 不良債務は、令和元年27億円の巨額に達している。 (7) 一般会計の過重な負担により、福祉や教育などの諸施策に影響が出ている。 (8) この15年間、5回に亘り計画を見直して経営健全化に努力してきた結果、経営悪化を招き続けてきた。</p>	<p>経営再建計画（案）では、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」からの提言を踏まえ、江別市と近隣市町村を含む地域において、必要な医療を持続的に提供できる体制を確保しつつ、市立病院の経営再建を着実に進めるため、令和4年度までに地方公営業法の全部適用に移行し、長期的には、地方独立行政法人への移行を指向するとしています。</p>	D
3 - 11	<p>Ⅲ 情報開示の徹底と未来を見据えた政治決断</p> <p>1. 市民に対する解りやすい情報開示 民主主義の基本は、市民に対する判りやすい正確な情報開示にあります。 国は、地域医療の確保と公立病院の経営改革を進めて行く上で、議会や地域住民の理解を得るためにも公立病院の経営指標の「見える化」が重要であるとして、「経営比較分析表」の導入と「Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）サイクルの展開」を求めています。 江別市は、市立病院財政の赤字の常態化の原因分析、多額の累積欠損金の肥大化実態、17診療科別の収支の開示、医師の定着状況等、所謂、「負の部分」に関して、市民目線での解りやすい情報開示を行ってきませんでした。 今後は、速やかに正確な情報開示を求めます。</p>	<p>国（総務省）が導入した「経営分析表」について、市立病院では、平成28年度決算分から策定しており、市立病院ホームページに掲載しております。 また、市立病院の診療体制や財政状況につきましては、累積欠損金や負債の状況を含め、これまででも、市広報紙やホームページ等でお知らせしておりますが、市民に分かりやすく情報を提供するよう努めてまいります。 なお、診療科別の収支については、法令に基づく作成基準等が存在しないことから、「江別市立病院経営評価委員会」のご意見をいただきながら、研究をしていきたいと考えております。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
3 - 12	<p>2. 市理事者と市議会議員の決断と実行への期待 行政も市議会も「市立病院問題を論ずると医師が離職する」と、診療科別収支を非開示する等、経営悪化要因の検証と真摯な改革論議を避けてきたことから、今日の経営悪化を招きまました。 議員は一人一人選挙で市民の選択を得て当選してきたのですから、それぞれ個性を發揮して行動すべきですが、会派に所属するとその域を脱しきれずにいます。二元代表制の意義を再認識し、市民本位の姿勢を貫徹して「市立病院経営の負の遺産」を次世代に先送りしないように、勇断をもって決着されることを願ってやみません。</p>	<p>経営再建計画（案）に基づく経営再建の進捗状況等につきましては、市議会へも報告してまいります。</p>	E
4 - 1	<p>基本 江別市民とその近郊住民から必要とされる病院にしていく市民に声が反映され利用される公立病院をめざす。 今、コロナ感染症の中で公立病院の重要性が問われています。江別から市立病院の経営形態を独立行政法人にすることが江別市民にとって大きなマイナスの問題になります。東京都が公立病院を独立行政法人へ移行する事が報じられましたが、コロナ感染症の改めて公立病院の重要性が問われています。 市民に独立行政法人になると、どんなデメリットがあるか、メリットがあるか明らかにして欲しい。(多くの市民は独立行政法人の事がよく分からない) 政府、厚生労働省は公立病院の統廃合が名指しで求めています。特に北海道はその対象病院数が多いです。病床のベッドを減らし患者を減らし医療費削減を求めています。全世代型社会保障費はその一例です。(75歳以上の医療費の2割負担) など 1月の広報には市民に市立病院の状況が掲載されましたが、病院経営の緊迫度があまり感じられませんでした。内科医師だけがどうして退職したのか、どうしたら退職しないようにしなければ病院経営の悪化は解消されません。 もっと早くに病院問題を市民に知らせる事が必要だったのでは。あまりにも負債が大きくなりすぎたのでは。 病院の職員のみなさんは今コロナで頑張っていますが、病院の経営状況に対する問題意識をどの様持っているのかが、これからの問題解決の大きな課題ではないかと思います。</p>	<p>経営再建計画（案）では、独立行政法人化については、長期的な視点に立って検討を進めるとしてありますが、幅広く市民の意見を伺いながら検討を進める旨を明記します。 また、市立病院では、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」からの答申をもとに、ロードマップを作成し、院内全体で共有しながら経営再建を進めているところであります。病床利用率の向上や看護体制の見直しのほか、院内で複数のプロジェクトを立ち上げ、もの忘れ外来や健診センターを設置するなど具体的な取り組みも進めております。 経営再建計画（案）では、明確な経営目標を設定し、職員と意識共有を図ることで、ボトムアップの組織文化を醸成することとしており、病院の経営状況についての問題意識についても共有できるよう、取り組んでまいります。</p>	A

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
4 - 2	<p>外来・入院患者確保 江別市民に病院の状況をもう少しお知らせ、江別市立病院の活用を促す取り組みを強めなければ患者は増えません。どうすれば患者が病院に来てくれるかを考えて欲しい。(患者数をただ増やすのはだめです)</p> <p>①江別市立病院を守(活用)サポーター制度の導入を拡大(江別市立病院友の会)。 ・病院職員(対象者含む)、市0Bなど市立病院を必要としている市民を中心に運動を展開する。</p> <p>②現在あるボランティア活動を市民に広げる取り組み。</p> <p>③交通手段の拡充 ・高齢者へのバス料金の補助 ・現在は中央バスへの江別市から補てんしている金額と患者増に伴う病院経営改善を考えた補助制度の実施。 ・野幌駅前開発工事の終了に伴う予算の活用。</p>	<p>現在、市立病院では、「ボランティアコスモス」が、市民と共に医療の向上に努め、地域に根ざした市民に愛される病院づくりに協力することなどを目的に活動をしていただいているところであります。「ボランティアコスモス」の活動を広く市民の方々にお知らせするなど、市民に信頼される病院づくりに向けて、広報活動を充実する旨、計画に明記します。</p> <p>交通手段の拡充につきましては、令和2年4月1日からジェイ・アール北海道バスのダイヤが改正され、新札幌駅と江別駅を結ぶ路線とゆめみ野地区と江別駅を結ぶ路線が市立病院を発着とする路線に変更されました。これにより、市立病院敷地内にバス停が設けられ、新札幌方面やゆめみ野地区方面の方の通院の利便性が向上したところです。今後も、通院の利便性向上に向けまして、関係機関に働きかけを行ってまいりたいと考えております。</p>	A
4 - 3	<p>2. 病院経営 ・ふるさと納税を病院存続(医療・介護支援)などに活用を広げる。 ・市民・全国の江別出身者に病院存続の寄付を広げる。 ・事務職員のプロパー(早急に体制の強化)</p>	<p>経営再建計画(案)では、病院事業固有の専門性と経営感覚を併せ持った職員の育成と確保を進め、特に、専門性の高い事務職員の育成と確保が必要となることから、事務職員のプロパー化を進めることとしています。</p> <p>また、ふるさと納税、寄附に係るご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>	B
4 - 4	<p>3. 医師確保 江別市立病院の経営再建の最大の課題は内科医師確保なので、内科医師の退職の情報などを早くつかみ、対応をする。 大学との連携を強くする事は大切ですが、江別市として独自の努力が必要では？市民や患者が辞めない医師をつくり、育てる活動(医療関係者が地域に入り患者の声を聞く相談会)などを開催し専門職が講師として参加。</p> <p>①江別市に住んでいる医師(内科)を調査して医局(事務)からの働き。 ・他の民間医療病院から医局事務の役割を学んではどうか。</p> <p>②病院に医学生対策部署を設置して、江別市立病院奨学制度を作る。</p> <p>③医師の働き方改革 ・全国で女性の医師の増加 女性医師が働きやすい条件を作る。 ・育児休暇他の確保</p>	<p>医師確保にあたっては、大学医局からの派遣状況を考慮しながら、民間医療機関への派遣要請や人材紹介会社等の活用を継続し、情報収集に努めてまいります。</p> <p>また、定年退職後の医師など多様な人材の採用に取り組むほか、育児中の医師に対する各種支援制度の周知に努める旨、計画に明記します。</p>	A

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
5 - 1	<p>I. パブリックコメントの扱いについて 平成28年3月の「江別市立病院新公立病院改革プラン」に対するパブリックコメントには111件の意見が寄せられたが、改革に向けた意見は殆ど反映されずセレモニーの感が強い。従って今回の提言については市議会や市理事者、江別市立病院経営改革評価委員会に提示し意見を聴き、最大限に活かして頂きたい。</p>	<p>パブリックコメントでいただいた市民意見につきましては、江別市立病院経営評価委員会のご意見も伺いながら、市の考え方をとりまとめ、議会に報告いたします。</p>	E
5 - 2	<p>II. 経営改革を検討する視点 1. 人口推移との関係 S49～H10の24年間で6.4→12万人 1.9倍に増加。然しその後20年間は微減している。今後の推計では毎年千人位の減少が予測されている。 2. 市内の医療体制の推移 S45 病院 4. 診療所 30 H10 病院 5. 診療所 47(100) この年市立病院開院 H30 病院 6. 診療所 60(128) うち内科22で競合 H10の人口と医療数（病院と診療所の合計）を100とするとH30は人口は横ばいにも拘わらず医療数は127%である。受療者の奪い合い。今後は人口減少傾向から受療者は確実に減少する。 3. 札幌医療圏の状況 高度から専門まで整備されていていて、受療者の選択肢は広い。 4. 当院の目指す方向性 機能強化 ・ ・ ・ 在宅医療、ガン 他の分野は維持又は連携なら当病院の特徴は希薄。病床は急性期と精神のみ。 計画案の目標値に対するコメント 経営再建の理念として「様々な経営指標を常に把握・分析し・状況変化に即時かつ的確に対応・・・」とありますが、本当にそうなっているだろうか。 P14～20の計画目標値は殆どが実現不可能と思われる。その理由は、基準値を3年前（H29）の実績と比較しても殆どの項目で極めて悪化しているにも関わらず、根拠無く3年間で急激に改善するような値を掲げているからである。医師の確保、意欲や能力の向上、効率化などは従来の改革の際にも用いてきた漠然とした期待である。P20～22の目標達成の取り組みをみても、現在、超危機的状況にあり「役割とあり方検討委員会」会から貴重な答申があったにも拘わらず、これまで改善されてこなかった改革ガイドラインや改革プランと何ら代わり映えない内容になっているか。</p>	<p>経営再建計画（案）における目標値については、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」からの答申を踏まえ、「江別市立病院経営評価委員会」のご意見を伺いつつ設定してものであり、達成可能なものと考えております。 なお、「外来患者数」及び「入院患者数」の目標値については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「外来」については、機能分化・連携強化を進め、「入院」をより重点化する方向で見直しを行います。</p>	D
5 - 3	<p>5. 市財政に及ぼす影響 近年、一般会計からの繰り入れが14億円で推移している。にも拘わらず毎年度欠損金を出し、更に長期貸付などがなされている。H30年度でみると当初繰り入れ14億円に年度末13億円を加えると27億円になる。累積欠損金はH17年度に36.3億であったものがH元年度には114億円とのこと。このような状況を漫然と続けることが市民に対し、また市財政上から許されるだろうか。</p>	<p>経営再建計画（案）では、不良債務額と他会計長期借入残高（一般会計からの長期借入金）を経営安定化に係る指標としておりますが、負債全体を適正に管理していく観点から、企業債残高を指標に加ええます。 また、財務基盤の強化に向け、累積欠損金残高を指標に加えるほか、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」からの答申において、「累積欠損金の早期解消に向けては、地方公営企業法第32条の規定に基づく「減資」の活用といった手法についても検討されたい。」との提言をいただいていることから、「減資」の活用について研究を進める旨、計画に明記します。</p>	A

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
5 - 4	<p>6. 江別市立病院の方向性 機能強化 分野は在宅医療、ガン。 機能維持は手術と小児と周産期。精神は縮小方向。 高度・専門化が進んでいる札幌医療圏のなかで、特質性を持たないならば存在意義は極めて薄く埋没がすでに現れていないか。</p>	<p>経営再建に当たっては、市立病院が特質性を持つことは非常に重要であり、高齢化が進む江別市においては、住み慣れた地域で生活し続けられるよう、「がん」や「在宅医療」への対応を強化し、地域密着型の医療に取り組むことで、札幌医療圏の中で特質性を持っていきたいと考えております。</p>	C
5 - 5	<p>7. 地域医療の自治体病院の使命 このように客観的に考察すると、当自治体病院としての使命は政策医療ではないか。</p>	<p>経営再建計画（案）では、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」からの答申を踏まえ、いわゆる政策医療のうち、周産期医療、小児医療については機能を維持しつつ、救急医療、災害医療については、民間病院や他の医療機関と連携し、体制を構築することとしています。 また、精神疾患について、総合的な病院機能を必要とする精神科身体合併症への対応など、公的病院として担うべき政策医療への重点化を図りつつ、長期的な方向性について、継続的に検証を行うこととします。</p>	A
5 - 6	<p>8. 政府の公立病院改革の指針・地域医療確保のための財政支援 (1) 僻地などの地域の生活を支える、公立病院及び不採算地区病院への支援を強化する。 (2) 僻地、救急、災害、周産期、小児、精神、高度 など不採算部門に特化した支援を強化する。 等が打ち出されている事から、当病院は何れ地方交付金が減額される方向である。</p>	<p>政府の公立病院改革や地域医療確保のための財政支援の方向性につきましては、引き続き、動向を注視してまいります。</p>	C
5 - 7	<p>9. 経営形態の見直し 政府はH19の「公立病院改革ガイドライン」で人事、予算、組織運営などに係る権限、実績評価などに民間的経営手法を推奨するとしている。当院に当てはめると、独立行政法人化であろう。 当再建計画では、今後の取り組みを次のように整理している。 (1) 地方公営企業法の全部適用への移行 集中期間中に地方公営企業全部適用移行に向け、準備する。 (2) 経営形態移行の方向性 地方公営企業全部適用に移行し、新たに設置する事業管理者のもと、財務面の課題を解決した上で 江別市立病院経営改革評価委員会の意見を伺い、長期的な視点で検討をすすめる。 この点は極めて重要な事であり、漸くここまで踏み込んだかと言う感じである。 然し、このような方向性を導くにしても、更に最低3年以上かかることである。この間これまでの経緯やコロナ禍の下では、更に経営財務は悪化するであろう。</p>	<p>経営再建計画（案）では、経営改善を着実に進め、令和5年度における収支均衡の実現を図ることとしております。 また、地方独立行政法人化に向けては、財務面を中心に多くの課題があることから、まずは、地方公営企業法の全部適用に移行し、新たに設置する事業管理者のもと、財務面での課題を解決した上で、長期的な視点に立って検討を進めることとしています。</p>	B

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
5 - 8	<p>Ⅲ. 市理事者と市議会議員の英断と実行 市立病院の経営悪化問題は少なくともH26（2014）年頃から市民の関心事の対象になった。然しその当時、市議の殆どは、此までも何とかなってきた、病院問題に触れることはタブーなんだ、国の政策が悪いんだ、と他人事の様な認識であった。市理事者も似たようなもので、加えて情報公開に基だ後ろ向きで、内情を知らせまいとする態度であった。従って正面から議論することを遠ざけていた。このことが市立病院の経営悪化を野放しにしてしまった最大の要因であり、大いに反省されるべき点である。累積欠損金がH17年度に36.3億円であったものが、H元年には114億円に膨らみ市財政を圧迫している事が全てを物語っている。市の将来の姿に係わることになっている。</p> <p>経営形態を現状維持など決して有ってはならない。経営形態の選択に当たっては、民間譲渡や廃止も排除せず抜本的な改革になるよう切に願う。市理事者と市議会議員の真摯な姿勢が問われており、英断と実行を切望する。</p>	<p>経営再建計画（案）では、現行の地方公営企業法の全部適用から、令和4年度までに、地方公営企業法の全部適用に移行することとしております。経営形態の移行につきましては、「江別市立病院経営評価委員会」の助言をいただきつつ、市議会の意見も踏まえ、対応してまいります。</p>	E
6 - 1	<p>R2年度の決算見込から入院収益はR1年と比べ130百万円減少しています。この状況で、R3年の外来収益を400百万円以上増加させることは大変難しいものではないかと思えます。</p> <p>新型コロナの影響もまだ長引く様子であるため、経費についても大幅な削減は出来な思えます。</p> <p>ロードマップ2023は3年計画であり、計画1年目から実績が目標と大幅に乖離すると、計画の見直しが必要となり事務負担が増え、江別市立病院で働く職員皆様の士気も低下し、一般市民も病院経営に不安を感じてしまうため、1年目は現実的に達成可能な目標設定をお願いいたします。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、経営再建計画（案）の経営指標について、「外来」については、機能分化・連携強化を進め、「入院」をより重点化する方向で、見直しを行います。</p>	A
6 - 2	<p>赤字経営の中、職員の人件費を増やすことは難しいとは思いますが、新型コロナの中病院で働いていただいている、お医者様、看護師さん、助手さんや事務員の皆様には、今後も江別市立病院で働きたいと思われるような配慮（支援金等）があってもいいのかと思えます。</p>	<p>経営再建の実現のためには、職員のモチベーションを高めることが重要であると考えられますので、働き方改革をより一層進めるなど、江別市立病院で働き続けたいと思われるような取り組みを進めます。</p>	C
7 - 1	<p>ロードマップを拝見しました。公的病院の果たす役割を維持しつつ経営改善を図るための計画として、いくつかの懸念はあるものの、その姿勢は評価できます。一部の市民のように、「税金を投入しているのに赤字にしているような病院はいらない」とか、「民間に譲渡すればよい」という立場はとりません。いわゆる不採算医療や、地域、の中核的な役割（特に今は、感染症対策を担う役割）市民に身近な病院という性格は、民間にはない大切なもので何としても守らなければなりません。</p>	<p>地域の中核的医療機関として、地域医療を確保し、地域密着型の医療の提供に努めてまいります。また、感染症対策についても、地域の医療機関と連携をしつつ、公的病院としての役割を果たしてまいります。</p>	B
7 - 2	<p>ただ、経営改善という時、職員の労働条件の不利益変更の問題や、ロードマップの最終目標を独法化にしていることは、疑問に感じます。第一に今回の経営悪化の直接の原因は、医師の退職ですが、背景には日本の絶対的な医師不足（OECD平均と比較して12万人少ない）ことや、医療費抑制策、世界一高い薬や医療機器、消費増税による支出増などがあります。このような問題は、日本のどこかで起きてもおかしくない状況です。コロナ禍で、こうした日本の医療の脆弱性が顕著に表れたのではないのでしょうか。江別市は、「団体自治」の精神で、今こそ国にこうした政策の転換を訴えていくべきではないのでしょうか。</p>	<p>「地方独立行政法人」への移行については、地方公営企業法の全部適用により新たに設置する事業管理者のもと、財務面での課題を解決した上で、長期的な視点に立って、検討を進めるとしてはありますが、市民の意見も踏まえ進めることを明記します。</p> <p>なお、国に対しては、診療報酬制度の拡充や財政支援等について、市長会などを通じて、機会を捉えて働きかけを行ってまいります。</p>	A

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
8 - 1	<p>日頃より江別市におかれましては市民の医療体制にご尽力いただき感謝いたします。</p> <p>私たち市民にとってこの度の（案）内容は、用語や内容等むずかしいものでしたが1月の広報誌を拝見したことも相あまって意見を提出させていただきました。意見作成にあたっては、病歴HP「市立病院の役割とあり方を検討する委員会」、市議会の生活福祉常任委員会や過去の特別委員会の議事録も拝見しました。</p> <p>自主再建を目指すとのことですが、市立病院の現状は極めて厳しい経営状況であり、今日に至る過程や状況等を病院、行政自らがコロナ禍以前にもっと市民にわかりやすく丁寧に説明する機会を持つべきではなかったかと思えます。議会の役割も重要です。江別市には自治基本条例があり、これらに鑑みれば行政としての市民へのわかりやすい情報提供、情報共有が不十分であったと言わざるを得ません。</p> <p>再建に向けた最後のチャンスと捉えています。市民の思いがどのような形で反映していただけるのか否かはわかりませんが、要望等も含め何点か意見を述べます。</p>	<p>経営再建の実現に向けては、市民の理解と協力が不可欠でありますことから、広報を充実し、市民への分かりやすい情報提供に努める旨、計画に明記します。</p>	A
8 - 2	<p>・コロナ禍にあつて、様々な意味で公的病院が存在することの意味、意義を感じています。地域によって利用患者に差はあるようですが、社会状況による市民一人ひとりの生活の変化や独り暮らしの増加が予測されることなど、命を守るためのセーフティネットとしての病院としてあり続けてほしいと思えます。診療体制は、近隣自治体の医療環境を見極めながら必要な連携もしつつ、診療体制の効率化は止むを得ないと考えます。担うべき医療の重点化に取り組んでください。</p>	<p>札幌医療圏の他の医療医療機関との連携を強化しつつ、診療体制を効率化するとともに、担うべき医療の重点化に取り組み、公的病院としての役割を果たしてまいります。</p>	B
8 - 3	<p>・国の制度や大学医学部、地域医療（民間医療機関）など、市民にとっては極めて理解しにくい複雑な仕組みでもあることが少しわかりました。ある意味コロナ禍によって改めて医療・医者・保健所などのそれぞれの役割について医療等を受ける側として、改めて考える機会ともなりました。</p>	<p>市立病院を取り巻く医療環境の変化などについて、引き続き、分かりやすい情報提供に努めてまいります。</p>	C
8 - 4	<p>・再建計画の経営指標に関する数値目標は、コロナによる影響もありスタートから極めて厳しい状況となっております。コロナの影響による病院経営悪化については、全国に及んでいることから必要な財政支援等があるのかとは思いますが、財政状況の厳しさに変わりはありません。確実な経営改善に向けた具体的な収益増につながる取り組みが必須です。</p>	<p>再建計画の経営指標に関する数値目標につきましては、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、外来機能は機能分化・連携強化を進め、入院機能を重点化する方向で見直すとともに、DPC最適化の取り組みなど、具体的な収益増加に向けた取り組みを進めてまいります。</p>	A

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
8 - 5	<p>・経営形態の見直しでは、地方公営企業法の全部適用へ移行するとし、経営形態以降の方向性を考えているとのこと。しかし、国の大学、研究機関も独法化が進められてきましたが、むしろ財政状況は厳しく悪化する状況となっているように見受けられます。独法では自ら稼ぐことが求められるわけですから、こうしたことに江別市立病院の規模で命を預かる医療機関として果たして独法への移行が妥当なのか慎重に検討議論を重ねてください。</p>	<p>地方独立行政法人化につきましては、市民の意見も踏まえ、長期的な視点に立って検討を進める旨、明記します。</p>	A
8 - 6	<p>・平成18年の病院の危機以来、病院経営改善に向けては医師招聘こそが最大の課題であることが生活福祉常任委員会、市立病院・地域医療検討特別委員会、市立病院の役割とあり方を検討する委員会の議事録で理解できます。ロードマップ達成には、確実にその解決に向けた進捗状況等を可能な限り経営評価委員会、議会、市民に説明することが求められます。次年度はロードマップの3年の半ばとなり、今後令和3年度予算の検討が始まりますが、とりわけ医師招聘に係る具体的道筋をしっかりと示してください。</p>	<p>医師招聘に係る取組状況を含む、経営再建の進捗状況につきましては、経営評価委員会、議会、市民にお知らせしてまいります。 また、医師招聘に係る考え方につきましては、経営再建計画の中で、より具体的に明記します。</p>	A